

AJU 愛実

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家/愛実友だちの家/紙風船)

第44号 会報

定価:一部100円

メンバーは偉人である。/島 しづ子・・・P1
 シェアハウス構想・・・・・・・・・・・・・・P2
 理念 地域とのかかわり/戸田 真二・・・P3～4
 大地の家・・・・・・・・・・・・・・P5～6
 紙風船・・・・・・・・・・・・・・P7～8
 明日に向かって/宮川 優子・・・・・・・・P9
 寄付者名簿・・・・・・・・・・・・・・P10



大地の家遠足
 赤沢自然
 休養林にて



紙風船
 Go! ぽくし



メンバーは偉人である。

理事長 島 しづ子

ジャン・バニエさんの葬式以後、自分が仕事の場でメンバーを対象化して支援してきたことを反省している。ジャンはラルシュ・ホームに暮す仲間たちを「友だち」と思って接してきた。最初からそうしたわけではなかったろうが、メンバーと暮らし、彼らの声に耳を傾ければ傾けるほど、人間として対等に接してくれる支援者を求めていることに気がついていったようだ。しかも、彼らの生きる場所を社会の片隅ではなく、彼らの存在や存在から訴えているものが、社会が根本的に必要としているものだと言いつづけた。そのあり方は多くの共感を呼び、ラルシュ・ホームの理念は世界中に広まった。私もメンバーを対等な人格とする理想に共鳴し、彼らの声を聴くことを真似してきた。

が、現実にはメンバーを支える対象とし、自分が想像する範囲で相手の自立を考えてきた。ありがたいことにメンバーはこちらが思うようなプロセスを経てくれない。むしろ年を重ねて問題(アシスタントにとって)が多くなるばかり。無力さを感じて怒りも出てくる。思い通りになってくれないと癪に障るし、かわいくない。そして考える、私はこの頑固さ、自分のやり方をずーっと通してきた。それで困ったこと(周囲のほうがもっと困ったかも)もあるが、困ったことの後始末から自分が変わらざるを得ないこともあった。が、ほとんど生来のものは変わっていない。

逆にメンバーはアシスタントを一人ひとりよく観察していて、それぞれのアシスタントに応じた要求や依頼をしているのをよく見る。人間観察力がすごい。しかも私たちが相手に無いものねだりをするのと違ってリアルな人間を受け止めて、上手に使い倒して(若者言葉)いる。愛実の会は「職員だと管理する立場みたい」「先生だと教える人みたい」だから働く人は「アシスタント」と呼んできた。利用者さんは「メンバー」である。それでも対等な関係を結んできたかと問われたら、力関係に左右されてきたことを認めざるを得ない。そもそも対等な関係と言う生き方を私たちは教育されてこなかったのだ。どうしても教育するという名目で支配しようとしてしまう。残念ながら「教育」という支配関係が実は社会に蔓延してきている。その息苦しさを弱いものに向けてしまいがちである。

私がいつも疲れた顔をしているので、メンバーが自分の膝を指差して、私にそこに座れと言う。そして彼女の膝に座ると彼女は私の肩をもんでくれる。ありがたい思いやりである。実はメンバーこそ思い通りにならない人生なのにアシスタントを受け入れ、毎日をたんたんと過ごしている。「尊敬する人格者たち」だ。社会は偉業をなした人を尊敬する。けれど、愛実の会ではメンバーを尊敬し、友だちとして彼らの声を聴き続けて歩んで欲しい。

シェアハウス構想

どんなに障がいが高くとも、地域の中で安心して暮らすことの課題は、加齢に伴うメンバーの重度化、家族の高齢化と共に老障介護問題として深刻化しています。グループホームや一人暮らしの支援も進んではいますが、親亡きあと、終の棲家としての居場所となると大変さだけが浮き彫りとなり、足踏みをしてきました。

愛実の会では、この問題に直視し今年度からシェアハウス構想として、現行の福祉制度に縛られることなく、自由な発想でのイメージ創りが始まりました。夢を語り合うことから、どんなホーム？誰と一緒に住むのか？何を大切にしていくのか？ハード・ソフト面等、資金や支援体制のことはさておき、コンセプトとしてたくさんのキーワードが出されています。

障がい者だけでなく、親子で入居の可能性も、シングルの健常者の入居も…様々な多様性に対応する住宅にしたい。高齢者のサービス付き住宅+障がい者というような形。地域の中に共同体があることが大切。隣人、友人の輪の中に。自分らしく生活できる、主体が誰であるか、利用者の個性や人権、プライバシーが守られること。楽しく人とのつながりや交流を大切に。

人とのつながり 心のよりどころ 安心できる環境 プライバシーの重視

《全部詰め込むとこんなイメージ》

大きな集合長屋住宅、サービス付き住宅

- 1F 共有リビング、食堂（交流の場）
- 2F 障がい者向けアパート（個室、ワンルーム）
- 3F 高齢者向けアパート（個室、夫婦、家族入居OK）
- 4F-6F 一般向け賃貸

★各自のケアはホームヘルプで対応



夢を語り合うことは、現実との大きなギャップや様々な課題も同時に見えてきます。80・50問題、医療的ケア、成年後見、孤独死等、地域で安心して暮らすことの課題は、障がい者だけの問題ではなく、すべての人が同じ将来への不安を抱いているからこそ、新たなモデルが必要とされていると感じます。施設という箱を作るのではなく、共に生きる地域社会の実現を創造していくことが大切であると思うのです。

できることから、始めていく。現行制度の活用、支援体制の確立、資金の調達、目標の設定、行動指針へと具体化していくことがこれからの課題となります。

「福祉」＝「幸せを創り出すこと」だと思います。幸せの形は様々であり、価値観の違いや個性など多様化の時代の中では人それぞれです。選択できる自由と排除されない風土が重要であり、お互いの違いを認め合い分かち合うことから共同体が生まれます。シェアとは何をシェアしていくのか？みんなの思いがここに込められていくことを願っています。

理 念 地域とのかかわり

～地域に根ざすために、出会いを大切にし、開かれた場をつくる～

理事 戸田 真二

先日、障がい福祉職員研修で多職種連携研修に参加して来ました。テーマは「地域住民とともにインクルーシブな社会を目指す地域包括ケアネットワークの構築」、簡単に言うと地域共生社会（誰も排除しない社会）の実現に向けた取り組みと私たちの役割を考えるための研修でした。

まず、講義初めにこれは誰の発言でしょうか？の問いがありました。

1. 知的障害者は同じ人間と思っ**て**はいけない
2. 気持ち悪い知的障害者ともう棒で歩く盲目とバスに乗る車椅子なんて障害者なんてい**な**くなってほしい（投稿原文のまま記載）
3. L G B Tは非生産的だ
4. 「心失者」（重度知的障害者で自分の名前も言えないような人間）には、生きて**い**る価値はない

1と2はやまゆり園殺傷事件のあとのツイッターでの投稿文、3はある国会議員の差別発言です。そして4は戦後最大の大量殺人鬼となった被告の言葉です。そしてこのことを肯定的に捉える人が今なお日本人の4割いると言われました。誰も排除しない社会創りへの役割とは真にここにあることに共感を覚えます。その後行われたグループワーク（15班）では、ブレインストーミングによりそれぞれが抱える課題を具体的に出し合い、小さな集団をまとめ、中・大集団を作っていきます、そして解決策やユニークな提案をみんなが出し合うことで分かち合い一つの目標（行動指針）を作成しました。

多くのグループで共通して出された課題に、地域とのつながりがあげられました。地域に認知されない、交流がない、町内との連携が取れない、身寄りのない方の把握ができない等です。そしてこのことは災害時に顕著に表れます。東日本大震災の時は、避難所には障がい者はいませんでした。「障がい者が消えた！」と言われました。そして障がい者の死亡率は2倍であったと報告されています。その中で救える命がたくさんあっ

たはずだと思います。居場所のない排除された障がい者家族や取り残された方が多くいたという事実を自分たちのこととして受け止めなければなりません。今後同じことが繰り返されない取り組みとしてインクルーシブ防災が提唱されていますが、私たちにできる役割りを具体化し、共有していくことの必要性を強く感じています。

ブレインストーミング 4つのルール

アイデアを拡げる時は

判断遅延

突飛さ歓迎

質より量

他の人に便乗

1. ネガティブな判断を遅延しよう
(批判をしないようにしよう)
2. 突飛なアイデアを歓迎しよう
(自由奔放に考えよう)
3. 質にこだわらずたくさん出そう
(大量に発案しよう)
4. 他の人に便乗し出そう
(既出アイデアを活用して、
改善バージョンのも作ろう)

★グループワーク

地域とのつながりから、私たちのグループで出された解決策は以下の通りです

発信 〈自ら進んで交流の機会を持とう！〉

- ・ 地域の清掃活動を目立つように行う
- ・ 地域のイベントに参加するのではなく主催する
コンサートやポッチャ・車いすダンスなどのスポーツ交流
出会いの場を広げるお見合いパーティー、その他目玉を作り
誰もが参加したくなる、障がい者も輪の中に
- ・ サロンを開き、だれもが立ち寄れる場所を提供する
- ・ 地域の防災訓練に参加し、連携を強め認知していただく
施設が避難困難者の受け皿となる



愛実の会のことを紹介する時に、「障がいの重い方の生活介護事業（デイサービス）でほとんどの方が車いすを利用し、障がい支援区分6、現在の登録利用者は30名で1日14～17名のメンバーが通ってきています。」と説明します。たぶんこれでイメージできる方は少ないかと思えます。障害が重い＝重度、軽い人を軽度と分けていますが、重症心身障がい者は全国に約4万3千人いると推計されています。そのうち、約3割が施設入所で、約7割が自宅で生活をしており、重症心身とは重度知的障がいと重度肢体不自由が重複している状態像を言います。大地の家のほとんどのメンバーがこれに該当します。そして紙風船のメンバーは重度肢体不自由の方が多くいて、その他様々な重複障がいも持っています。しかし大切なのは「障がい者」というレッテルを貼り区分することではなく「～な支援を必要としている人」同じ人としての視点に立つことだと思います。

私たちはどんなに障がいが重くとも、その人がその人らしく生きていける様に支援し、共に寄り添い合い、地域に愛されるような場所となることが、実はインクルーシブな社会（排除のない社会）となると考えます。つながりはふれあい・出会いから第一歩へ！
みなさん、どうぞ愛実の会に気軽に遊びに来てください。

10月に刈谷で開催された車いすダンス交流の様子





大地の家活動報告 7月-10月

信州に遠足に行きました

今年の遠足は長野県の赤沢自然休養林に行ってきました！
大地の家としては初のリフト付き観光バスをチャーターしての遠出で、どうなるのやら…と当初は不安が大きかったのですが、始まってみると快適な旅となりました。

当日は朝の8時頃に近所のコンビニに集合し、いざ出発です！今回はメンバー9名、家族等7名、アシスタント10名の総勢26名での遠足となりました。

9人のメンバーがバスに乗り込むのに事前にシミュレーションをし、アシスタント間で打ち合わせをして準備をしました。

実際には想像以上にバスのリフトの動きも良く、スムーズに乗り込めました。

旅のはじめの目的地は中津川・ちこり村です。

ちこり村では到着するなり係りの人にお出迎えいただき、チョコリの水耕栽培の様子やチョコリについてのガイドをしていただきました。

食事とトイレの休憩に寄ろう…と考えていたのですが、しっかりちこり村について案内していただき、思いがけず良い経験ができました。チョコリが芋からできているなんて…知りもしなかったので驚きました！

ちこり村の食事は『ばーばーずダイニング』というレストランで地元野菜いっぱいのバイキングでした。

どれを食べても美味しく、メンバーも普段の食事量とは違い多く食べている人もいました。

そして、中津川からバスで走ること1時間半。
長野県・上松町の赤沢自然休養林へ行きました。

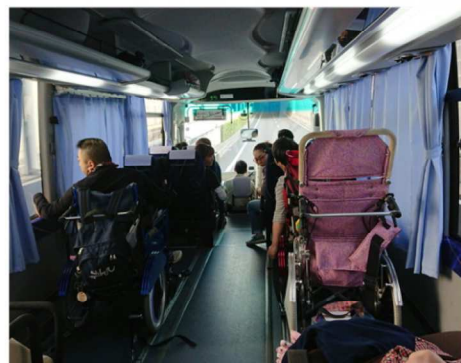
赤沢自然休養林ではトロッコ列車に乗り、のんびりと自然を満喫しました。

5人のメンバーが車いすのままトロッコに乗せてもらい、座席に移ることのできる人は座席に座ってのんびりと森の中をトロッコに揺られて移動しました。

なびく風も少し冷たく、秋の気配を感じることができました。



↑リフトを使って
観光バスに乗車中



↑バス車内の様子
車椅子のまま広々と



↑ちこり村での
見学の様子



↑森林鉄道(トロッコ)に
車椅子で乗車

その後つり橋を渡って木道を歩き、山の中に少し入りました。

木々でできた自然のトンネルをくぐり、川沿いを散策し、名古屋では到底味わえない山の秋を味わいました。

紅葉の見頃には少し早かったのですが、名古屋よりも涼しい森の中で、匂いや空気、川のせせらぎの音などから自然を感じることができました♪

この赤沢自然休養林は日本の森林浴発祥の地としても知られています。実際に木道散策だけでも森のにおいをたくさん感じることができ、十分に森林浴を満喫できました。

普段の外出活動とはまた違う雰囲気の中で、天候にも恵まれて遠足活動を実施でき、良かったです。

音や匂い、空気などから自然を感じ、リフレッシュできた人も多かったのではないかと思います！

また来年も是非メンバーに楽しんでもらえる遠足を企画したいと思います。



↑トロッコは
2両に分かれて乗車



↑川のせせらぎと
木道で森林浴を満喫

歯科検診がありました

港区自立支援協議会および港区歯科医師会により、年に一度の歯科検診を実施していただきました。

普段から歯科にかかっている人も、かかっていない人も、歯科医の先生に診ていただきました。

障がい者の歯科受診にはいくつかのハードルがあります。ハードルが高くて歯科にかかることのできない人も中にはいるので、今回の検診は貴重なものでした。

また、地域の歯科医の先生方にお越しいただくことで、地域で暮らす障がい者の存在を知っていただきました。歯科医師会では、地域の歯科で受け入れるハードルを下げることにも意識しておられるとのお話を伺いました。

今後も継続して実施していただき、歯科を受診する障がい者、患者を受け入れる歯科、双方のハードルが少しずつ下がることを期待したいと思います。

毎年木曜日の実施ということもあり、休日返上でお越しいただいた皆さんには、とても感謝しています。



↑全体で衛生講座



↑個別に検診していただきました



イオン名古屋茶屋店でイエローレシートキャンペーン参加中

毎月11日にイオン名古屋茶屋店で黄色いレシートを集める活動を行っています。

お買い物をされることがありましたら、「大地の家」のボックスに投函をお願いします！

紙風船のページ

秋もようやく深まり、街ではクリスマスやお正月の雰囲気も漂うようになってきました。連日の猛暑や様々な地域での水害など、心痛めるニュースも多かった令和元年。被災地の方々への想いを忘れずに、楽しく一年を締めくくりたいと思います。

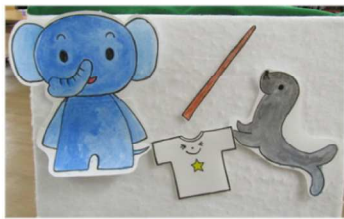
月曜日の紙風船



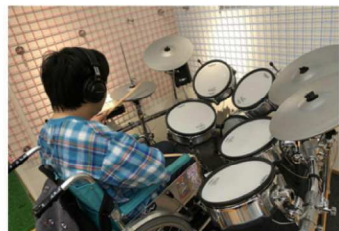
4月から、紙風船は月曜日にもデイを開催しています。普段はにぎやかな紙風船も月曜日は少し静かに、でもいろいろな事に取り組み、時には大地の家の活動にも参加させてもらっています。

大きなチャレンジのひとつに「パネルシアター」があります。パネルシアターはパネル布と絵を使ってお話や歌が展開します。メンバー二人と相談し、題材を決めた後は布を切ったり絵に色付けしたりしていきました。パネルへの絵の出し方やタイミングなど何度も稽古を重ね、歌の練習もしました。他のメンバーにも観てもらい、ついに8月、とあるデイサービスセンターのボランティア公演で初披露となりました！皆さんに大変楽しんで頂けたようで自信がつけました。新しい作品にも取り組んでいます。これからも月曜日ならではの活動を広げていくつもりです！

デビュー作「ぼうがいっぼん」



秋のお出かけ～浜松&小牧～



さわやかハンバーグ & 楽器博物館



9月は浜松、10月には小牧方面へのお出かけでした。

浜松では、話題の「さわやかハンバーグ」でお腹いっぱいになった後、世界中の楽器の宝庫「浜松市楽器博物館」でアジアやアフリカの楽器を触ったり大好きなドラムセットに挑戦したりするなど、貴重な体験をする事ができました。

一方、小牧にある県営名古屋空港内「あいち航空ミュージアム」へ出かけたメンバー。こちらは、飛行機の歴史に触れたりドラマで有名になったドクターヘリや警視庁の飛行機内部を観たりしてきました。限定のお土産もゲットできましたね！

普段できない体験をしている時のメンバーの笑顔をこれからも大切にしていきたいと思ます！



あいち航空ミュージアム





公演だより



【公演報告】

- 第250回 7月16日(火) 名古屋柳城短大付属豊田幼稚園「ボーちゃん」
 251回 25日(木) 名古屋市緑寿荘公演「ボーちゃん」
 252回 8月28日(水) デイサービス千音寺「人形パフォーマンズ」
 253回 9月23日(月・祝) ひまわりホール子どもアートフェスティバル
 「ポンタとたっくん」
 254回 28日(土) 名古屋堀川伝道所公演「ボーちゃん」
 255回 10月24日(木) 花の木デイサロンボランティア公演
 「ボーちゃん」
 256回 11月17日(日) 愛知県手話通訳問題研究会「ボーちゃん」

ボーちゃん警察官デビュー!?

以前会報でもお知らせしましたが、紙風船では看板作品「ボーちゃん」を少しリニューアルする事になりました。ボーちゃんが、今度は警察官になって奮闘します!

内容やセリフ、動きなどを決めて実行するのはなかなか時間がかかりましたが、11月9日(土)、長久手福祉の家での「ながくてふれあい劇場」で、初のお披露目をする事ができました。警察官になったボーちゃん、お客さんの協力もあり見事ドロボーを捕まえます!ところが最後にはまたまた失敗してしまう…といういつも通りのお茶目なボーちゃん。でも、失敗したってくよくよしないボーちゃんの明るさがお客さんに笑顔と勇気と与えてくれるのだと思います。最後に観客の皆さんが人形やメンバーとも交流でき、「ふれあい劇場」の名にぴったりのイベントとなりました。

これからもボーちゃんにますますの応援をよろしくお願ひします!



間違えちゃった!!



ありがとうございます!

【今後の公演予定】

- 2020年1月13日(日) 教団)岡崎教会
 2月16日(日) 豊明新生教会



公演依頼募集中!



- ☆1公演2万~(予算につきましてはご相談に応じます(ボランティア公演も致します))
- ☆各地域のイベントや学校・幼稚園の行事の一環など30~1時間プログラムが可能です
- ☆メンバー・アシスタントは多くの方々に紙風船の想いが伝わっていく事を願ひ、手紙やメール、SNSを使って宣伝活動を頑張っています。最近では”YouTube”に動画もアップしています!ぜひご覧ください☆

人形劇団紙風船

明日に向かって

理事 宮川 優子

愛実の会の「大地の家」に通い始めて12年、息子は30歳になりました。身長は20代に入ってからゆっくり伸び続け、18キロで安定していた体重がこの1年で少しずつ増えまもなく20キロになろうとしています。最近鼻にニキビを作り、顔つきも大人っぽくなり、かなり遅い思春期がやってきました。障がいのある人は教科書に書いてあるようには育たないのですが、それにしてもいまだに成長中とは、息子の生命力は親が思う以上に強くてたくましいようです。

息子は介護される立場では30年のベテラン。誰に頼めば自分の要求が通りやすいのかも知っていますし、笑顔でお願いすることも、甘えることも上手になりました。「大地の家」が居場所となり、アシスタントに見守られ、自分らしさを発揮して楽しく毎日を過ごしています。

ここに至るまでには大勢の方に助けてもらいました。障がいのある家族を持って初めて多くのことに気づきます。「他人に迷惑をかけてはいけない」という言葉の残酷さを身をもって知り、「他人に迷惑をかけないで生きられない。だから甘えられるときは甘え、甘やかすのもありね」という態度で生きるのはけっこう楽しいものです。

さて、私が役に立てるのであればと思い、昨年からは理事を引き受けました。利用者の母という視点から離れ、運営側に立ってみると今まで順調に活動してきた愛実の会が次の課題に取り組む時期がきていることが見えてきます。活動当初からのメンバーは40代に入り、介護する親もともに、体力が衰え、病気、入院などが頻発しています。生活介護に通うのが難しい家庭状況もみられ、入所施設への進路変更や居宅介護へのニーズが大きくなっています。また、介護業界の人手不足の中で、アシスタントたちの健闘ぶりには頭が下がりますし、だからこそ働く人にとっても魅力的な職場になるような運営が必要です。

障がい者の人権ばかりを優先したり、労働者の人権ばかりを主張すると対立します。また、経営の合理性や効率を追求し過ぎると福祉事業は成り立ちません。ちょうどいいさじ加減を探して、いつもより良い選択ができるように丁寧な議論をしたいと思います。

先回の定例会では、NPOの会員で新しい方向について話し合いがもたれました。親亡き後であったり、親自身の老後であったり不安を解決するためにはどうしたらいいのでしょうか。色々な話し合いをしながら、でっかい夢ではありますが、数年後にみんなが安心して暮らせる〇億円（！）の新施設が実現したらいいなあと思いました。

小柄な息子の介護は、まだまだ頑張れそうです。とはいえ夫は60代に入りましたし、今のような生活が何年続けられるかわかりません。息子は身体が不自由でも、音楽や映画など自由に好きなことを見つけ、楽しむことに貪欲です。親としては我が家から離れる次のステップは今の生活の延長上にあって欲しいと考えます。そのためには自立に向けて色々な体験を重ね、その日を迎える計画をそろそろ具体化せねばなりません。

愛実の会のメンバーが幸せに生きられるようにアシスタント、家族ともども努力しています。どうぞ会報読者のみなさまにはこれからも変わらずご支援いただけますようお願いいたします。

【NPO愛実の会寄付者名(順不同・敬称略) 2019年7月1日～2019年10月31日】

★寄付金

吉見 よね子	藤澤 深根子	文井 みよ子	矢口 由美子
鈴木 あつみ	伊藤 きみ江	加藤 由美子	伊藤 あつ子
榊原 喜代子	佐藤 千萬子	持田 由美子	榎本 久美江
今枝 ミサ子	河村 比佐子	前沢 まき代	瀬古 まさの
三矢 かな江	西口 和代	武井 陽一	石田 利彦
下村 徹嗣	野崎 典子	佐藤 全弘	鶴崎 祥子
船曳 愛子	奥山 喜正	脇田 純子	伊藤 裕子
足立 克己	江崎 敬子	榛葉 英子	山内 正美
田中 綏子	竹田 朋子	柴田 京子	戸田 真二
風間 文子	本間 愛子	佐野 都吾	戸田 澄子
阿部 健二	伊藤 英昭	伊藤 和子	比企 敦子
藤原 信子	寺田 仁計	木村 淑江	矢澤 綾子
佐藤 雅美	宮崎 正和	見木 靖美	笠谷 恵子
河野 トミ	山口 清枝	岩橋 常久	曹 誉戸
杉本 誠	柏木 實	東 昌子	有賀 進
吉田 弘	福島 真	水戸 潔	近藤 洋
森 豊	太田 栄		

田中民子・光津次 村上貴久・裕子 石田周介・伊志子 市原信太郎・誉子
吉谷尚之(複数回) 島 しづ子(複数回)

京都みぎわキリスト教会 日本キリスト者医科連盟総会
在日大韓基督教会名古屋教会女性会

★紙風船夢づくり

小薄 満寿美	岸野 奈奈子	吉見 よね子	川口 いづみ
河合 みち子	石崎 亮史朗	佐藤 雅美	小川 弘樹
宮原 祐子	鈴木 好美	秋山 公夫	荒川 敦子
吉戸 瑛子	酒井 淳子	小嶋 俊則	竹山 徹
永井 猛	森 豊	(有) いろり	

★物品寄付

塚田 多佳子

【任意団体「障がい者・友だちの会・愛実」寄付者名 (順不同・敬称略)】

喫茶愛実

【ボランティアでご協力いただいた方】

永田 友香(紙風船) 森田 猛(紙風船)

名古屋市港区歯科医師会の皆様

古賀 敦子 ゲオルギー・ロマコフ Danny Nisbett

ご協力ありがとうございました。

事務局からのお知らせ

寄付金について 目標額380万円

2019年度寄付金総額143万円となりました(10月末現在)

内訳 愛実の会寄付金・・・134万円

紙風船夢づくり・・・9万円



多くの方のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

愛実の会では、今年度から将来に向けた新たな地域生活支援の形を模索しています。シェアハウス構想はそのひとつであり、メンバーの重度化、家族の老障介護問題等、安心できる暮らしの場は、充実した支援の形を創ることに他なりません。その実現にはマンパワーの確保と支援の輪を広げていくことが大きな課題となっています。どうぞ引き続き愛実の会への皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

★寄付金の控除について

愛実の会は、名古屋市が認定した「認定NPO法人」です。当法人は、公益事業を行う法人として、税制面で優遇を受けています。寄付をした翌年の確定申告時に、当法人が発行する寄付金受領証明書を添付することにより所得から控除を受けられます。また、故人の方の生前のご意思に基づいて、相続人の方などが当法人へ「財産寄付」する場合も「非課税」対象で税制優遇となります。

尚、寄付金受領証明書は確定申告まで大切に保管をお願いします。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームページ http://aminokai.com（リニューアル中）

または

愛実の会

検索

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490

□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 100円 何円でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）